



◆ 今月のテーマ ◆
 アイヌ文化のことをもっとも話したい!
 本田優子と村木美幸の二人が、その魅力を交代で
 執筆するソノコ(=お便り)形式のエッセイです。



アエキモヌパ(葬式)
 本田優子(札幌大学教授)



か

つて平取町二風谷で暮らしていた頃、私は菅野
 茂先生のアイヌ語辞典のお手伝いをしていま

したが、ある時こんな例文が手渡されました。「○○ばあ
 ちゃん倒れて、下の始末までされているようだ。早く
 死ねばいいのになあ」。思わずギョッとして「これ、いい
 んですか?」と尋ねると、先生

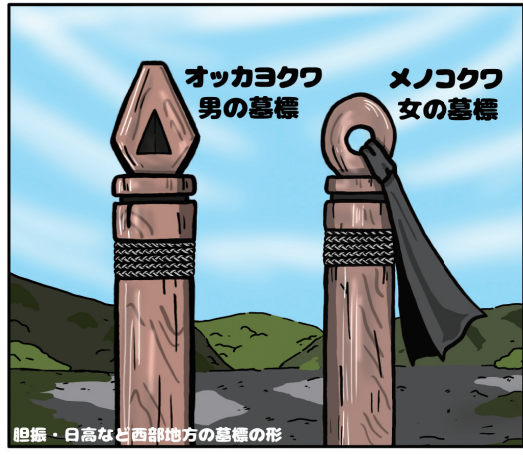
は深く頷きながら「いいんだ」。
 もちろん、私には先生の意図は
 わかっていたのです。なぜなら、
 先生は日頃から口癖のように

「アイらしい死に方というの
 は、枯れ木が音もなく倒れるよ
 うな死に方だ。今みたいに体
 じゅう細(点滴などのチューブ)

につながれてヘッドに縛られてい
 るのは、人の死に方ではない」。
 その例文は倒れたおばあさんに
 対する思いやりから生まれたの

ですが、結局、出版社からの要請で削除されました。
 さて人が亡くなると、先祖から受け継いできた習わ
 しに従ってお葬式が執り行われます。時代や地域に
 よって違いはあるものの、おおよそ次のような流れで

しょうか。まずは死者の装束を整えて安置し、近隣の
 村々に訃報を伝えるに行きます。知らせを受けた村々か



祖伝・白高など西部地方の墓標の形

イラスト/山丸ケニ

らは多くの人々が弔問に訪れます。一方、男たち数人が
 山から木を伐り出し墓標を作ります。火の神への祈り
 や引導渡しの後、遺体は家から運び出され、墓地に埋
 葬(土葬)されます。

葬式を指すアイヌ語はいくつかありますが、私は『菅
 野茂のアイヌ語辞典』にあるアエキモヌパ(葬式)といふことば
 に注目しています。意味は「山へ

履き出す」。おやうく死者の魂は
 山に向かっていると考えられて
 いたのでしょう。これは、日本の
 古い考え方である「山中他界観」
 とも共通するよう(1)に思います。

(1) 関市(岩手県)の知勝院を
 ご存知でしょうか?一九九九年
 に日本で初めて樹木葬墓地を
 開いたお寺です。私が訪問した
 四月には、桜が咲き蛙が鳴き、
 穏やかで美しい里山の景観。明
 るい林のあちこちに地域の低木

が植えられ、脇には故人のお名前が書かれた小さな木
 札。木の下に火葬後のお骨が直に埋められており、人
 はまさに自然に還っていきます。「願はくは花のもとに
 て春死なむ その如月の望月のころ」。西行法師の有名
 な歌。私もやがては山懐で自然に抱かれて眠りたい…
 最近二層その思いが強くなっています。



次回のテーマは「ウエランカラブ(挨拶)」
 村木美幸(アイヌ民族文化財団常勤理事)
 が担当します。



ウポポイ
 NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
 民族共生象徴空間

JR白老駅から徒歩約10分



ウポポイPRキャラクター「トウレツボン」



■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
 ■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団常勤理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
 ■山丸ケニ(やままるけに):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団職員。ウポポイでアイヌ語体験プログラムを担当する。